

# ALUMINIUM NEWS

アスカ工業株式会社アルミニウムニュース

第 633 号

2014年3月1日

発行

アスカ工業株式会社

〒444-0303

西尾市中畑町卯新田上28

## 2014年アルミニウム缶需要

### 196.4億缶を予測

アルミ缶リサイクル協会（臼井啓一理事長）は2月14日、2014年のアルミニウム缶需要予測と2013年の需要見込みを発表した。

これによれば、2013年の国内アルミニウム缶需要は前年比2パーセント増加して194.5缶に達する見込みで、当初予想した1パーセント減の189.7億缶を上回る数字となった。

これはコーヒー缶の一部がスチール缶からアルミニウム缶へ転換し、同時に夏の猛暑でビールなど飲料用缶の伸びが大きく寄与したことによる。

2014年はビール系以外の飲料缶がけん引し、1パーセント増の196.4億缶となる見通しである。ビール系

飲料缶は少子高齢化や若者のビール離れなどにより、毎年1パーセントずつ減少し、101億缶と予測した。

対照的に、ビール以外の飲料缶は新製品の投入などで毎年1パーセントずつ増加しており、188億缶に達すると予測した。

非アルコール飲料は前年の好調を受け2014年も6パーセントの伸びを見込む。

過去6年間のアルミニウム缶の需要は次の通りで、2011年以降堅調に推移している。（単位・億缶）

・2007年	185.2	・2010年	185.6
・2008年	184.3	・2011年	188.0
・2009年	182.4	・2012年	191.3

## 日本の飲料用アルミニウム缶需要量（1～12月）

（単位：億缶、カッコ内は前年比％）

暦年		2012年実績	2013年実績見込み	2014年予測	
A 向先別 国産缶 出荷量	ビール（発泡酒・新分野含む）	103.0（99.0）	102.0（99.0）	101.0（99.0）	
	ビール 以外の 飲料	その他のアルコール	21.8（104.0）	22.6（104.0）	23.0（102.0）
		非アルコール	59.1（104.0）	61.5（104.0）	65.0（106.0）
	ビール以外の飲料計		80.9（104.0）	84.1（104.0）	87.0（103.0）
	小計		183.9（101.0）	186.1（101.0）	188.0（101.0）
	（うちボトル缶数量）		20.7（107.0）	20.4（98.0）	20.4（100.0）
B	空缶輸入量	0.5（100.0）	0.5（100.0）	0.5（100.0）	
C	実缶輸入量	7.5（130.0）	8.5（113.0）	8.5（100.0）	
D	実缶輸出量	0.6（100.0）	0.6（100.0）	0.6（100.0）	
E	国内需要量計（A+B+C-D）	191.3（101.0）	194.5（102.0）	196.4（101.0）	

# 2014歴年自動車需要見通し慎重

## 日本自動車工業会

一般社団法人日本自動車工業会はこのほど2013歴年の国内需要実績と2014歴年の需要見通しをまとめ、これを公表した。

これによると、2013歴年の四輪車総需要は、前半は終了した補助金政策の効果の剥落によって前年水準を下回ったが、後半は景気の回復に加え、新型車投入・モデルチェンジ効果と、消費税率の引き上げを控えた駆け込み需要により前年を上回り、通年では前年並みの水準となった。

2014歴年の需要見通しについては、世界経済の緩やかな回復を背景とする輸出の増加や、企業収益の改善等による設備投資の増加、経済対策による公共投資が景気を支えするものの、消費税率の引上げによる消費マインドの低下が懸念される。

また、2013歴年後半に発生した駆け込み需要の反動減も予想され、四輪車総需要は4,850千台、前年比で90.2パーセントと見込んだ。

普通・小型四輪乗用車については、消費税率の引上げを控えた駆け込み需要はあったものの、前年に終了した補助金効果の剥落により通年では前年を下回った。

2014歴年については、消費税率の引き上げに伴い、前年後半に発生した駆け込み需要の反動減に加えて、消費マインドの低下により前年比90.9パーセントと見込んだ。

軽四輪乗用車は2013歴年については駆け込み需要に加え、新型車の投入の効果が大きかった。2014歴年には、前年の反動減が予想されることから前年比87.0パーセントと見込んだ。

### 自動車国内需要実績と見通し（含輸入車）

（単位：1,000台）

			2012歴年	2013歴年	2014歴年見通し	前年比	
						2013	2014
四輪車	乗用車	① 普通小型	3,015	2,872	2,610	95.3	90.9
		② 軽四輪	1,557	1,690	1,470	108.5	87.0
		③ 計	4,572	4,562	4,080	99.8	89.4
	トラック	④ 普通車	136	143	151	105.1	105.4
		⑤ 小型四輪	227	236	228	103.8	96.7
		⑥ 軽四輪車	422	423	380	100.3	89.9
		⑦ 計	785	802	759	102.1	94.6
		⑧ パス	12	11	11	94.2	97.7
		⑨ 合計	5,370	5,376	4,850	100.1	90.2
三輪車	⑩ 原付一種	246	239	240	97.0	100.5	
	⑪ 原付二種以上	196	222	223	112.9	100.6	
	⑫ 合計	442	461	463	104.1	100.6	

# 特 許 取 得

— アルミ溶湯の清浄度判定 —

アスカ工業株式会社 取締役社長 天 野 卓

アスカ工業株式会社中畑新工場稼働の第1の目標はCO<sub>2</sub>排出量の大幅削減でありました。この目標は既報アスカニュース627号（2013年9月）でお知らせした通り、第1ステップとして、35%の大幅削減を達成いたしました。

そして、第2の目標に掲げていたのが、従来からアスカ工業製のインゴットの「きれいさ」をどういう風に「見える化」して皆様にお伝えするかという課題を克服することでした。

丁寧に選別された原料に厳選された添加物に加え、適正な溶解温度で、丁寧に攪拌・フラックス処理を経、真心を込めてお届けする。この一環の「ていねいさ」をどう具体的に裏付けできるかを追求した結果、この度、「特許取得」というかたちで「見える化」が実現いたしました。

発明の名称は、冷却曲線から溶湯の洗浄度判定方法及びその装置です。

本発明は、非鉄金属又は非鉄金属を主成分とした合金の溶湯の冷却曲線から溶湯の清浄度判定方法及びその装置に関するものを技術分野といたします。

アルミニウム casting においては金型又は鋳型に溶湯を注入する前段階で、ろ過フィルター、フラックス処理又は沈静処理等により介在物除去が行われていますが、

そのために溶湯を注湯する前段階において溶湯中の介在物の個数を計測して清浄度を判定して金型などに溶湯を注湯してもよいかを判定することも必要です。

この溶湯中の介在物の個数を計測し清浄度を判定する手段として、加圧ろ過法やKモールド法が知られています。

加圧ろ過法は、フィルターを設置したルツボに溶湯を注入し加圧させて、フィルターでろ過し、ろ過した溶湯の経時変化量を把握し、これを閾値と比較して溶湯の清浄度を判定するとともに、ろ過後のフィルターとその上に残存した凝固物を切断研磨し、顕微鏡で介在物の個数を計測して製造可否の判定をする方法です。

またKモールド法は、板状の鋳型に鋳込み、板状の試験片を作成し、分割切断して破面を測定者が肉眼で観察して、酸化物などの介在物の個数を計測する方法です。

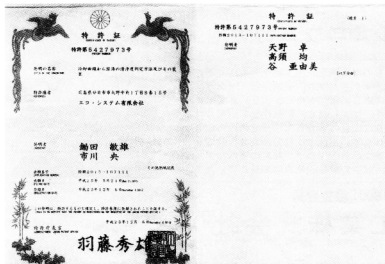
加圧ろ過法にしてもKモールド法にしても、分析の熟練者を必要とします。そこで、計測時間の短縮や測定者に左右されない自動的な判定方法の開発を、エコ・システム有限会社と研究を重ねてまいりました結果、この度の特許取得に至りました。

冷却グラフで初品過冷度という最初に描く変化点の温度変化と初品過冷度から指定された温度までの凝固

時間を使って溶湯内の介在物や凝固を阻害する因子等の存在を調査することが可能となります。

今後は、従来法の実験技術に加えて本法を大いに活用して、現状お使いいただいていますアスカ工業のインゴットのすばらしさをご実感、ご納得いただき、安心してご利用いただけますように社員一同地道に努力してまいりますので、一層のご支援、ご愛顧たまりませんよう心からお願い申し上げます。

特  
許  
証



## 三河湾の しおひがり

西尾市の三河湾沿岸には8ヶ所の潮干狩り（しおひがり）のスポットがあり、3月16日にオープンする。当地の「あさり」貝は極めて質が高く、全国的に有名である。

写真は吉良海岸のしおひがり。お問い合わせは西尾市観光協会（電話0563-65-2169番）へ。ただし、干潮時刻と天候により、交通渋滞の起きる可能性があり、ご注意のほど。



## 社 内 情 報

- ◎「冷却曲線から溶湯の清浄度判定法、及びその装置」の特許が登録されました。
- ◎この技術により、製品の品質の安定と、一層の向上が大きく期待されます。需要家各位のご期待に副うべく、一層の努力を続けます。
- ◎植樹のシーズンが来ました。事務所の前庭に「かえで」を植樹いたしました。若葉が待たれます。

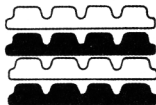
## 編 集 後 記

- 4月からの消費税率アップの影響が大そう心配されています。
- 日本自動車工業会の需要予測にも大きな配慮が払われているように思われますが、はたしてどのような経済環境になるか予想が困難です。
- 年初以降、引きつづいてダイカスト業界、鋳物業界ともに高操業が継続しており、ご同慶の至りです。

## アルミ缶リサイクリング 鋳造用アルミニウム合金地金



アルミニウムそのものでは強さ、加工性などの点で不十分で、銅、シリコン、マグネシウム、亜鉛、鉄、マンガン、ニッケル等を用途に応じて添加合金しますと、非常に優れた強さ、鋳造し易さ、加工し易さ、耐熱性などが得られます。添加金属は非常に微量の場合もあり、そのため厳重な品質管理が要求されます。当社では発光分光分析装置を使用して、迅速・正確な品質管理の下で非常に優れたアルミニウム合金を作り、日本の産業の発展に寄与しています。



ISO 9001 審査登録

## アスカ工業株式会社

〒444-0303  
愛知県西尾市中畑町卯新田上28  
TEL (0563) 77-0500 内  
FAX (0563) 77-0501  
<http://www.al-asuka.jp/>